

しんりんかんだより

年主題

「共に喜んで」～すべての歩みの中～

月主題 3F/2Fきづく/やってみよう

‘21 第3号 (vol.51)

2021年6月1日発行



「心の基地」

新年度がスタートして2ヶ月が経ちました。新しく年長になった子どもたちが、光組だけになるといつも決まって盛り上がる話題があります。それは、年中組の秋にみんなで保育園に一泊したお泊まり会の話です。「お泊まり会の時さ、みんなでミッションクリアしたよね。」

「あの時暗かったから懐中電灯持って行ったよね。」「そうそう暗いの怖かったからちょっとだけ泣いちゃったけど頑張ったよ～」どの子も昨日の事のように目を輝かせて話しています。

先日、新クラスになって最初のリトミックをしました。「虹組さんが初めてだから、光組さんのお手本をやってくれるかな？」と頼むと「いいよ～」とやる気満々の返事がきました。星組の時はの時は、やりたくないと言っていると「わたしもやらない・・・」「ぼくも・・・」とやりたくない気持ちが伝染していたのに、まるで人が変わったように自信を持ってリトミックのお手本を見せてくれました。光組になるって凄い!!!そうです。それは、4月1日の入園式からすでに始まっていました。初めて保育園にやって来たひよこ組さんを歓迎するために、堂々と合奏を披露したのですから。

子どもたちは、ひとりひとり自ら育つ力を持っている。そう実感しました。でもうまくいくばかりではなく日々葛藤の連続です。小さい子にやさしく接するつもりが上手に伝えられずに苛立ち、「だめ!」「やめて」「もうまたやってる」と怒ったり、年長同士の間では、主張のぶつかり合いがエスカレートして、厳しい言葉をぶつけあったりすることもあります。でも心の内をさらけ出して自分の本当の気持ちを出してこそ、相手の気持ちにも気が付く事ができる。大人が先回りして答えを出すことのないように、時間をかけてお互いの気持ちが通い合うまで、丁寧に話を聞きながら見守ります。

自己肯定感は3歳までに育まれると言われています。ありのままの自分を受け止められて育った子どもたちは、自分を愛し、他人を愛する心が育ち、仲間と協力していろいろなことを乗り越える喜びを感じています。お泊まり会の冒険話に花が咲くのは、仲間と乗り越えた体験が何よりワクワクしたからです。3泊4日のお泊まり保育に向けて光組の子どもたちは、新たなステージに進もうとしています。お家の方も是非ひとりひとりの自ら育つ力を信じ、信頼して、背中を押してあげてほしいと思います。

(主任 鹿糠 正美)